

金浦瓦版

編集・発行 金浦区自治会

発行日：2020.10.11

「高原・金浦今昔かるた」誕生秘話とその後 ①

令和2年9月に一年越しの「今昔かるた」が完成した。平成30年より区の文化的事業が始動した。その年に第一弾として冊子「わが故郷の記録：金浦の歩み」を発刊した。好評を博し、限定版（約200頁）のため希望者には約60人分のコピーで対応した。

第二弾は同年の12月に「金浦・夜久野高原観光・散策マップ」を作成した。（文化庁の補助事業として5000作成）。マップは関係機関に置かせてもらったり知人に配ったりしてPRに務めた。第三弾を取り組むことになったのは、冊子のお披露目会で神戸大学大学院人文学研究科のA氏より、「冊子作成はゴールではない、通過点です」との助言であった。どうしたものかと思い悩んでいた。アイデアが浮かんだ。金浦、高原とその周辺の史跡の数々・景観の素晴らしさは発信したけれど、それ等を思い出し機会ある度に再確認してもらうことが出来るようにするには……。このような過程を経て誕生したのが「今昔かるた」だった。

製作した280セットのかるたは、現在その半分以上の行方はと言うと、区内配付（2セット×36戸）、関係機関や協力者に進呈、希望者に販売等である。進呈先の主だった所は兵庫県立図書館・朝来市内（和田山図書館・埋蔵文化財センター・市長公室秘書広報課・教育委員会・地元の小中学校・梁瀬地域自治協議会・一部の市議員・筆者所属の古文書教室講座生11名）・放光院（茶堂）護持会役員17名・神戸大学大学院人文学研究科・「神戸と歴史」編集部・神戸新聞・両丹日日新聞その他。



「今昔かるた」製作は予想以上の波紋を広げている。主なものを挙げると、

- ①金浦や放光院（茶堂）を基点とした夜久野高原一帯の知名度アップ。
- ②放光院護持関係者との連携が一層強まる（88ヶ所石仏巡りの日・高原一帯の史跡ガイドマップ作成中）。
- ③朝来市の進める「夜久野高原開発構想」と関連させた高原の景観・史跡整備に係る陳情の準備。
- ④ふるさと教育に側面的な寄与。
- ⑤区外の多くの方からの称賛と情報入手。
- ⑥郷土史や高原に関心を持つ人・短歌愛好家・古文書愛好家・情報発信機関との情報網拡充。
- ⑦区の文化的事業第4弾の構想にヒントを得る。

金浦区文化的事業三点セット ①わが故郷の記録「金浦の歩み」 ②「金浦・夜久野高原観光・散策マップ」 ③「高原・金浦今昔かるた」